

(様式第 10)

医大病第 3 8 4 号
令和元年 1 0 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長 塚本 泰司

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

札幌医科大学附属病院

3 所在の場所

〒060-8543	電話011-611-2111
札幌市中央区南1条西16丁目291番地	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有	・	<input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
脳神経内科			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		有	・	無
外科と組み合わせた診療科名				
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科	
5血管外科	6心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科	
診療実績				

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		有	・	無
歯科と組み合わせた診療科名				
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科		
歯科の診療体制				

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科	2形成外科	3リハビリテーション科	4病理診断科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
42床	床	床	床	890床	932床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	259人	289人	486.7人	看 護 補 助 者	83人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	7人	22人	24.9人	理 学 療 法 士	29人	臨床検査技師	59人
薬 剤 師	53人	3人	54.6人	作 業 療 法 士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	33人	4人	36.1人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	740人	43人	772.7人	臨 床 工 学 士	19人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	2人	1.5人	栄 養 士	0人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	3人	2人	5人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	98人
管理栄養士	7人	1人	8人	診療放射線技師	50人	そ の 他 の 職 員	29人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	48人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	29人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精 神 科 専 門 医	7人	放射線科専門医	16人
小 児 科 専 門 医	18人	脳神経外科専門医	22人
皮 膚 科 専 門 医	13人	整形外科専門医	25人
泌尿器科専門医	12人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産婦人科専門医	18人	救 急 科 専 門 医	19人
		合 計	264人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (土橋 和文) 任命年月日 平成30年4月1日

平成26年4月1日～平成27年3月31日	医療安全推進部長
平成27年4月1日～平成30年3月31日	医療安全部長
平成26年4月1日～平成30年3月31日	医療事故防止対策委員会委員長
平成26年4月1日～平成30年3月31日	医療クオリティ審議委員会副委員長
平成28年10月1日～平成30年3月31日	医療安全管理責任者
平成30年4月1日～現在	医療クオリティ審議委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	635.8人	23.6人	659.4人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1598.1人	93.6人	1691.7人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	1249.2剤		
必要医師数	159.39人		
必要歯科医師数	8.0人		
必要薬剤師数	22.0人		
必要（准）看護師数	387.0人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	433.8m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	6床
			人工呼吸装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	147.96m ²	
	[移動式の場合]	台 数	6床	
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合]	床 積	204.9m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名		
化学検査室	165.0 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、検体分注装置、検体搬送装置	
細菌検査室	50.4 m ²	〃	(主な設備) 微生物分類同定質量分析装置、薬剤感受性検出装置、培養装置、血液培養装置、	
病理検査室	185.7 m ²	〃	(主な設備) 全自動包埋装置、全自動染色装置、全自動免疫染色装置、写真撮影装置	
病理解剖室	52.3 m ²	〃	(主な設備) 解剖台、照明装置、写真撮影装置	
研 究 室	1006.8 m ²	〃	(主な設備) 書棚、パソコン、プリンター、プロジェクター、スクリーン等	
講 義 室	619.8 m ²	〃	室数	2 室
図 書 室	2312.1 m ²	〃	室数	3 室
			収容定員	544 人
			蔵 書 数	219,804 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		75.7%	逆紹介率		62.5%
算出根拠	A：紹介患者の数		14,405人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,193人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		347人		
	D：初診の患者の数		19,496人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有するもの	無	1
南須原康行	北海道大学附属病院		医療に係る安全管理に関する識見をもつもの	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー（株）		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		学内委員	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無		有・無
委員の選定理由の公表の有無		有・無
公表の方法 札幌医科大学附属病院HPで公開		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	57
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	59
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	35
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血	26
6	パーキンソン病	110	61	自己免疫性溶血性貧血	8
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	45
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	4	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	129	66	IgA 腎症	7
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	11
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	97	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	15	69	後縦靱帯骨化症	52
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロウ・深瀬症候群	3	71	特発性大腿骨頭壊死症	63
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	34	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	46
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	39	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	60
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	97
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	27
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	14
34	神経線維腫症	20	89	リンパ脈管筋腫症	4
35	天疱瘡	25	90	網膜色素変性症	20
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	52
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	29	95	自己免疫性肝炎	35
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	66
42	結節性多発動脈炎	14	97	潰瘍性大腸炎	103
43	顕微鏡的多発血管炎	26	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	177	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	69	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	92	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	36	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	376	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	9	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	14
113	筋ジストロフィー	11	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	4
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	4	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	2	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	1	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	2
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性肺炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	18
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	23

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料 ※精神:10対1	・ハイリスク分娩管理加算
・臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・臨床研修病院入院診療加算※単独又は管理(歯科)	・呼吸ケアチーム加算
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算2
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算2	・データ提出加算1
・医師事務作業補助体制加算 25対1	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算 50対1	・入退院支援加算2
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・認知症ケア加算2
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・精神科急性期医師配置加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料1
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料4
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料の注4に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・がん診療連携拠点病院加算	・小児入院医療管理料2(加算あり)
・栄養サポートチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算1	・歯科外来診療環境体制加算2
・感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・歯科診療特別対応連携加算
・感染防止対策加算の注3に掲げる抗菌薬適正使用支援加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料の注2	・骨髄微小残存病変量測定
・植込型除細動器移行期加算	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・外来リハビリテーション診療料	・遺伝カウンセリング加算
・外来放射線照射診療料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算
・糖尿病合併症管理料	・植込型心電図検査
・がん性疼痛緩和指導管理料1,2	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料2	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料3	・人工脾臓検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・脳波検査判断料1
・がん治療連携計画策定料1,2	・遠隔脳派診断
・がん治療連携管理料	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・排尿自立指導料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・内服・点滴誘発試験
・薬剤管理指導料	・センチネルリンパ節生検1併用法
・医療機器安全管理料1	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料2	・画像診断管理加算1(医科のみ、歯科はなし)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・遠隔画像診断
・持続血糖測定器加算	・ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影
・造血器腫瘍遺伝子検査	・CT撮影及びMRI撮影
・遺伝学的検査	・冠動脈CT撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・大腸CT撮影加算	・皮膚移植術(死体)
・心臓MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房の場合)
・乳房MRI撮影加算	・骨移植術(同種骨移植(非生体)(特殊なもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・骨移植術(自家培養軟骨移植術)
・外来化学療法加算1	・内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方切除に限る。)
・無菌製剤処理料	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・リンパ浮腫複合的治療料	・緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)
・救急患者精神科継続支援料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・人工中耳植込術
・医療保護入院等診療料	・人工内耳埋込術・人工中耳用材料
・硬膜外自家血注入	・植込型骨導補聴器移植術及び交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術
・導入期加算1	・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術
・透析液水質確保加算	・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・下肢抹消動脈疾患指導管理加算	・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・慢性維持透析濾過加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)
・人工脾臓療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)
・一酸化窒素吸入法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・食道縫合術(穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)	・胃瘻造設術
・経皮的冠動脈形成術	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下肝切除術
・経カテーテル大動脈弁置換術	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術	・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合	・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・埋込型除細動器移植術、埋込型除細動器交換術	・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術	・同種死体腎移植術
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・生体腎移植術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(18歳未満除く)	・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・補助人工心臓	・膀胱水圧拡張術
・経皮的大動脈遮断術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ダメージコントロール手術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術	・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・尿道形成術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・陰形形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・一回線量増加加算 全乳房照射
・人工尿道括約筋植込・置換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・陰形全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・画像誘導放射線治療加算
・精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・一回線量増加加算 前立腺照射
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・直線加速器による定位放射線治療
・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腸腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・密封小線源治療の注8に掲げる画像誘導密封小線源治療加算
・造脛術、脛閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・病理診断管理加算2
・子宮全摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・歯科治療総合医療管理料
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・歯科口腔リハビリテーション2
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・口腔粘膜処置(1口腔につき)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科)
・子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術(1顎一連につき)
・輸血管理料Ⅰ	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・コーディネート体制充実加算	・CAD/CAM冠
・自己生体組織接着剤作成術	・歯科技工加算1及び2
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・歯科矯正診断料
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・顎口腔機能診断料
・レーザー機器加算	・入院時食事療養/生活療養(Ⅰ)
・麻酔管理料Ⅰ	・
・麻酔管理料Ⅱ	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・硬膜外自家血注入療法	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微少残存病変(MRD)量の測定	・
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC 6回／年 がんサージカルボード 1回／年 カンファレンス 34回／年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 20例 / 剖検率 11%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アルツハイマー病モデルマウスを用いた酸化ストレス状態制御の試みと治療への応用研究	下濱 俊	神経内科学講座	3,800,000	補委	日本学術振興会
細胞の糖代謝特性を利用した新規大腸癌治療法の開発	加藤 淳二	腫瘍内科学講座	4,300,000	補委	日本学術振興会
炎症性大腸発癌の機序における低分子量GTP蛋白Ralの機能解析	飯田 智哉	消化器内科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
美白剤の安全性評価のための新規スクリーニング実験系の確立	黄倉 真恵	皮膚科学講座	530,000	補委	日本学術振興会
エピゲノム制御に基づく炎症性腸疾患個別化医療の開発	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	5,000,000	補委	日本学術振興会
大腸癌の分子異常サブタイプ別のmicroRNA解析と次世代診断・標的治療への応用	能正 勝彦	消化器内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
酸化ストレスによる多発性骨髄腫病態修飾機序の解析および新規治療法の開発	高田 弘一	腫瘍内科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患小家系におけるパーソナルゲノミクス解析	苗代 康可	消化器内科学講座	500,000	補委	日本学術振興会
HDAC classIIa阻害によるアポトーシス誘導を応用した新規膀胱癌治療の開発	小野 道洋	腫瘍内科学講座	500,000	補委	日本学術振興会
mTORシグナル異常制御による心不全治療の開発	矢野 俊之	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
腎臓における脂肪酸結合タンパク4の役割と臨床的意義の解明	田中 希尚	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
選択的HDAC class IIa阻害剤による新規多発性骨髄腫治療法の開発	菊地 尚平	腫瘍内科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞移植を用いた難治性てんかんに対する新規治療法の開発	福村 忍	小児科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
メラノーマ患者の血液循環腫瘍由来RNAを用いた病勢モニタリング法の確立	宇原 久	皮膚科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
大きく不定形な末梢領域動脈瘤に対する機能温存と無再発をめざす経済的塞栓術の開発	廣川 直樹	放射線医学講座	600,000	補委	日本学術振興会
ステント留置後血管に対する骨髄幹細胞移植による内膜新生メカニズムの解析	小松 克也	脳神経外科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
脳局所電場電位に着目した脳虚血の病態解析と新治療の開発	三上 毅	脳神経外科学講座	400,000	補委	日本学術振興会
皮質-皮質間誘発電位を用いたてんかんネットワークの研究	江夏 怜	脳神経外科学講座	200,000	補委	日本学術振興会
脊髄損傷に対する骨髄幹細胞移植直後からの神経機能回復のメカニズムの解析	押切 勉	整形外科科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
トランスクリプトーム解析による術後せん妄・認知機能障害とエイジングの関連解析	山蔭 道明	麻酔科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
化学療法抵抗性尿路上皮がんに対する5-Aza-CdRの臨床応用を目指した基礎研究	舩森 直哉	泌尿器科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
海綿体神経損傷モデルに対する急性期骨髄幹細胞移植の有効性～勃起機能は回復するか～	松田 洋平	泌尿器科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
3細胞間局在ASPP2/LSR/AMOT/Merlin/YAP蛋白複合体の役割	郷久 晴朗	産婦人科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
癌関連網膜症発症機序における関連因子の細胞内ネットワークの検討	大黒 浩	眼科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
硫化水素の中枢神経系中毒機序と脳保護作用の解明	成松 英智	救急医学講座	500,000	補委	日本学術振興会
心停止後症候群患者に対する脳波解析	宮田 圭	救急医学講座	400,000	補委	日本学術振興会
肝不全を来す蘇生後腸管症候群の病態解明と治療戦略	原田 敬介	救急医学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
口腔がんに対する再発予防がんペプチドワクチン療法の確立	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
オリゴデンドロサイト変性過程に関与するマイクロRNAの解析	久原 真	神経内科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
中等度催吐性リスク化学療法時各種メディエーターとCINVの発現に関する研究	沖田 憲司	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	300,000	補委	日本学術振興会

計30

ソラフェニブ治療抵抗性肝細胞癌におけるHIF1- α の役割	阿久津 典之	消化器内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
AMPデアミナーゼ活性修飾による糖尿病性心筋症に対する新規治療法の開発	丹野 雅也	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
血管内皮傷害における異所発現型脂肪酸結合タンパク4の役割解明と臨床応用	古橋 真人	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
ニンテダニブが肺サーファクタント蛋白質発現へ与える影響	大塚 満雄	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
TLR制御分子としての肺サーファクタントおよびHSP47抑制による肺線維化治療	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー 内科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病における脳内-血液免疫系細胞間のクロストーク開始起点と病態への関与	鈴木 秀一郎	神経内科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
IgG4関連疾患における病期分類導入と個別化医療への推進	山本 元久	免疫・リウマチ内科学	1,000,000	補委	日本学術振興会
回復しないうつ病への新治療戦略:末梢-中枢双方向からの神経新生促進と神経回路調整	橋本 恵理	神経精神医学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
DAT-SPECTを用いたレビー小体型認知症の症状発現の解明および新たな治療応用	小林 清樹	神経精神医学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
メタボミクス解析を用いた大腸癌末梢血スクリーニングの早期診断の検討	竹政 伊知朗	消化器・総合、乳腺・ 内分泌外科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
悪性神経膠腫に対する浸潤能の分子メカニズムの解明と制御による革新的治療法の開発	鰐淵 昌彦	脳神経外科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
慢性期脊損に対する骨髄幹細胞移植によるplasticity賦活化による機能回復	森田 智慶	整形外科科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
軟部肉腫に対するCD109を標的とした臨床応用	江森 誠人	整形外科科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
内皮グリコカリックスの障害に対する麻酔薬による保護作用の検討	時永 泰行	麻酔科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
吸入麻酔薬による心筋保護作用に対してナチュラルキラー細胞及び免疫応答が及ぼす影響	平田 直之	麻酔科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
前立腺がん微小環境制御による新規治療法の開発	橋本 浩平	泌尿器科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
臓器移植後移植片拒絶反応におけるHSP90の役割の解明および新規治療の開発	田中 俊明	泌尿器科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
子宮頸癌幹細胞をターゲットとした新規ペプチドワクチンの開発	斉藤 豪	産婦人科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
遊離脂肪酸の病原細菌への効果の解明と熱傷局所療法への応用の研究	上村 修二	救急医学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
ラット低体温モデルを用いた高度低体温の脳傷害と軽度低体温の脳保護効果の機序解明	井上 弘行	救急医学講座	700,000	補委	日本学術振興会
エピジェネティクスを通じた術後認知機能障害の発症の機序解明	立花 俊祐	麻酔科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
ミクログリア機能不全に対する新規アルツハイマー病治療の開発	岩原 直敏	神経内科学講座	500,000	補委	日本学術振興会
神経筋伝達が変化する病態における筋弛緩薬・拮抗薬の投与法と筋力評価法の検討	高橋 和伸	麻酔科学講座	800,000	補委	日本学術振興会
血管内皮グリコカリックスに対するアルブミン療法の確立	数馬 聡	麻酔科学講座	400,000	補委	日本学術振興会
α -klotho遺伝子欠損による創治癒遷延メカニズムの解明と治療薬の開発	須貝 明日香	形成外科学講座	600,000	補委	日本学術振興会
NASHにおける鉄酸化ストレスの誘導機序の解明と治療への応用	田中 信悟	腫瘍内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
CD4Treg 高抑制能サブセットが大腸癌に及ぼす影響に関する研究	平川 昌宏	腫瘍内科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
c-Relを標的とした新規膀胱癌治療の開発	吉田 真誠	腫瘍内科学講座	1,300,000	補委	日本学術振興会
大腸鋸歯状病変の分子異常解析からアプローチする内視鏡診断法の開発	若杉 英樹	消化器内科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
心不全の発症・進展における心筋ミトコンドリア鉄恒常性の役割の解明	佐藤 達也	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会

末梢肺上皮幹細胞の基礎的研究	田中 悠祐	呼吸器・アレルギー 内科学講座	400,000	補 委	日本学術振興会
アルツハイマー病における脳内酸化ストレス動態の解明と 骨髄間葉系幹細胞治療の確立	横川 和樹	神経内科学講座	1,000,000	補 委	日本学術振興会
難治性うつ病の脳個別解析ー脳由来小胞を用いた異常 ニューロン種の特定からー	古瀬 研吾	神経精神医学講座	1,400,000	補 委	日本学術振興会
DNA修復蛋白の発現を利用した放射線治療効果の予測	長谷川 智一	放射線医学講座	1,400,000	補 委	日本学術振興会
外傷性脳損傷に対する新規治療戦略	澤田 敦史	麻酔科学講座	1,600,000	補 委	日本学術振興会
くも膜下出血に対する130kD HES製剤投与の安全性の検 討	東口 隆	麻酔科学講座	1,300,000	補 委	日本学術振興会
オキシトシンによる妊娠ラット子宮筋収縮に対する麻酔薬の 影響と機序	君塚 基修	麻酔科学講座	1,000,000	補 委	日本学術振興会
デクスメトミジンによる心筋保護効果をもたらすmicroRNA の探索	吉川 裕介	麻酔科学講座	1,300,000	補 委	日本学術振興会
尿路上皮癌癌幹細胞の生存にかかわる遺伝子解析と治療 法の開発	松木 雅裕	泌尿器科学講座	1,600,000	補 委	日本学術振興会
ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤による頭頸部扁平上皮癌 抗腫瘍効果のメカニズム解析	小幡 和史	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	補 委	日本学術振興会
敗血症における乳酸生成はアドレナリンが誘導するのか？	文屋 尚史	救急医学講座	500,000	補 委	日本学術振興会
プロポフォール注入症候群治療戦略の探求-デクスメトミ ジンの可能性を探る	茶木 友浩	麻酔科学講座	600,000	補 委	日本学術振興会
有機リン中毒および重症脳損傷における呼吸リズム異常の 病態解明	野村 和史	救急医学講座	500,000	補 委	日本学術振興会
ナチュラルペプチドの網羅的解析による口腔がん幹細胞 特異的再発予防ワクチンの開発	宮本 昇	口腔外科学講座	1,500,000	補 委	日本学術振興会
難治性うつ病の新規治療法開発を目指す-幹細胞による 脳神経細胞リモデリング解析	木川 昌康	神経精神医学講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会
MR画像から計算したconductivity値に基づく直腸がん悪性 度評価法確立	畠中 正光	放射線診断学	1,100,000	補 委	日本学術振興会
臨床応用を考慮した実用的な放射線感受性予測法の開発	坂田 耕一	放射線医学講座	1,500,000	補 委	日本学術振興会
個別化放射線治療に向けたリキッドバイオプシーの応用	染谷 正則	放射線医学講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会
ヒトパルボウイルスB19感染症における病態多様性とウイル スゲノム変異との関連性	要藤 裕孝	小児科学講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝炎に基づく肝発癌における概日 時計の影響	佐々木 茂	消化器内科学講座	1,800,000	補 委	日本学術振興会
肝癌細胞特異的薬物搬送とClass選択的HDAC阻害薬に よる新規肝癌治療開発	宮西 浩嗣	腫瘍内科学講座	1,900,000	補 委	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎関連大腸癌におけるサイトメガロウイルス腸 管局所再活性化が及ぼす影響	川上 賢太郎	消化器内科学講座	1,100,000	補 委	日本学術振興会
ピロリ菌除菌後の胃発がんにおける新規バイオマーカの解 析および臨床応用の検討	三橋 慧	消化器内科学講座	1,700,000	補 委	日本学術振興会
心不全の病態における心筋ネクロトーシスの役割とオート ファジーの関連	三浦 哲嗣	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,800,000	補 委	日本学術振興会
肺マイクロバイオーム解析に基づくIPF急性増悪の病態解 明と革新的治療法への展開	千葉 弘文	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,000,000	補 委	日本学術振興会
膵管内乳頭粘液性腫瘍の新規マウスモデルで発見された 病態分子の臨床応用的機能解明	山口 洋志	消化器・総合、乳腺・ 内分泌外科学講座	1,000,000	補 委	日本学術振興会
術後虚血性脊髄障害に対する間葉系幹細胞を用いた治 療法の開発	安田 尚美	心臓血管外科学講座	1,700,000	補 委	日本学術振興会
ヒト中枢神経系におけるGlymphatic systemの機能解明	秋山 幸功	脳神経外科学講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会
てんかん発作誘発機構解明のための病理組織学的研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	1,400,000	補 委	日本学術振興会
脊損に対する骨髄幹細胞移植における介在ニューロンに より再構築される神経回路の解析	廣田 亮介	整形外科科学講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会

骨軟部腫瘍における転移診断バイオマーカーの同定と治療応用可能な融合遺伝子の探索	濱田 修人	整形外科科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
間質性膀胱炎に対する骨髄幹細胞移植による革新的治療法の開発	田端 秀敏	泌尿器科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
線維化機序に着目したIgG4関連疾患の病態解明	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	2,100,000	補委	日本学術振興会
ヒト鼻粘膜におけるp63を介した新規抗原・感染防御機構の解明	大國 毅	耳鼻咽喉科学講座	1,000,000	補委	日本学術振興会
ヒト小児咽頭扁桃における粘膜免疫誘導メカニズムの解明	小笠原 徳子	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症モデルラットの網膜微小血管内皮細胞におけるタイト結合蛋白の発現と機能	稲富 周一郎	眼科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
眼内炎症における酸化リン脂質の細胞障害性とその代謝の解明	平岡 美紀	眼科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
軟骨は移植された後どのような代謝が生じるのか？ー糖鎖工学を用いた生化学的検討ー	四ッ柳 高敏	形成外科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
腸管洗浄液DNAメチル化を応用した大腸がんリスク予測・超早期診断法の開発	久保 俊之	消化器内科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
アルツハイマー病モデルにおける骨髄間葉系幹細胞の作用機序/病態解明	松村 晃寛	神経内科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた腫瘍免疫能と放射線治療の解析	土屋 高旭	放射線医学講座	1,700,000	補委	日本学術振興会
胆道癌幹細胞を標的とするエクソソームの同定と新規標的治療への応用	石上 敬介	消化器内科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
大腸癌の発育進展に関与する常在微生物F.nucleatumの解析と予防法の探索	菅野 伸一	消化器内科学講座	1,600,000	補委	日本学術振興会
左室逆リモデリングの予測因子の検討	永野 伸卓	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	900,000	補委	日本学術振興会
肺がんの治療薬、診断薬としてのSP-Dの臨床応用	梅田 泰淳	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,400,000	補委	日本学術振興会
皮膚老化ホルモンPr12c3の作用とそのメカニズム	堀本 浩平	皮膚科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
肝再生置換療法の臨床応用の為のIn vivoプラント確立の橋渡し研究	石井 雅之	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
糖代謝・転写因子KLF4/FOXM1を標的とした膵癌の新規治療法の基盤的研究	及能 拓朗	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,800,000	補委	日本学術振興会
Limb remote ischemic preconditioningの解明	澤下 泰明	麻酔科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
虚血脳にくも膜変性における慢性炎症の解析 新規治療の開発にむけて	鈴木 比女	脳神経外科学講座	1,100,000	補委	日本学術振興会
筋脂肪細胞と炎症性サイトカインの関連に着目した疼痛発生メカニズムの解明	高島 弘幸	整形外科科学講座	1,500,000	補委	日本学術振興会
マイクロRNAとエピゲノム機構の相互作用による膀胱癌シスプラチン耐性化機序の解明	進藤 哲哉	泌尿器科学講座	1,700,000	補委	日本学術振興会
機能性リンパ球を標的としたシラカバ花粉症の新規治療戦略	山本 圭佑	耳鼻咽喉科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
新規口腔がん関連長鎖non-coding RNAの機能解析と臨床応用	西山 廣陽	口腔外科学講座	1,200,000	補委	日本学術振興会
大腸癌のBH3プロファイリングによる抗がん剤耐性機序の解明及び新規治療法の開発	加藤 淳二	腫瘍内科学講座	500,000	補委	日本学術振興会
ヒト小腸オルガノイド由来吸収上皮細胞の作製と創薬研究への応用	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	700,000	補委	日本学術振興会
PC-cineMRIによる肺高血圧症の早期発見と治療効果判定法の確立	畠中 正光	放射線診断学	50,000	補委	日本学術振興会
PC-cineMRIによる肺高血圧症の早期発見と治療効果判定法の確立	山 直也	放射線診断学	50,000	補委	日本学術振興会
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	400,000	補委	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学講座	100,000	補委	厚生労働省

難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	仲瀬 裕志	消化器・内科学講座	2,200,000	補委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	300,000	補委	厚生労働省
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	山下 敏彦	整形外科科学講座	200,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	仲瀬 裕志	消化器・内科学講座	500,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学講座	600,000	補委	厚生労働省
WHOの自殺予防戦略に基づくがん患者自殺予防プログラムの開発	河西 千秋	神経精神医学講座	2,856,000	補委	厚生労働省
先天性及び若年性の視覚聴覚障害に対する一体的診断体制に関する研究	高野 賢一	耳鼻咽喉科	100,000	補委	厚生労働省
救急医療体制の推進に関する研究	成松 英智	救急医学講座	200,000	補委	厚生労働省
H30土幌町における肺炎球菌ワクチン接種が肺炎発症に及ぼす影響に関する前向きコホート研究	高橋 弘毅 黒沼 幸治	呼吸器・アレルギー内科学講座	2,160,000	補委	土幌町
H30南檜山圏域周産期環境研究事業	齊藤 豪 山蔭 道明	産婦人科学講座 麻酔科学講座	12,000,000	補委	北海道
H30健康診断に基づいた小児期からの生活習慣病対策の推進における調査及び分析	鎌崎 穂高 竹内 孝子	小児科学講座	434,174	補委	釧路市
H30学術研究動向調査等に関する研究	加藤 淳二	腫瘍内科学講座	1,560,000	補委	日本学術振興会
下痢症ウイルス感染症の分子疫学および流行予測に関する研究	津川 毅	小児科学講座	1,500,000	補委	日本医療研究開発機構
高病原性鳥インフルエンザ感染症の臨床病理学的解析に基づく診断・治療に関する国際連携研究	平田 直之	麻酔科学講座	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの開発に向けた研究	高木 宏美	免疫制御医学部門	3,500,000	補委	日本医療研究開発機構
人工内耳装用者の支援センター機能のモデル化事業と発達段階別PDCAサイクル基本型の構築	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	4,587,596	補委	日本医療研究開発機構
自殺未遂者支援のための社会実装研究:効果的な自殺再企図防止方略の開発と普及、制度化を目的とした研究	河西 千秋	神経精神医学講座	5,550,000	補委	日本医療研究開発機構
多系統委縮症の自然歴と新規バイオマーカー開発に関する研究	下濱 俊	神経内科学講座	390,000	補委	日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	江森 誠人	整形外科科学講座	199,999	補委	日本医療研究開発機構
IgG4 関連疾患の新規バイオマーカーと治療ターゲット開発に関する研究	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学講座	2,210,000	補委	日本医療研究開発機構
小児期のウイルス性肝炎の病態解明と治療の標準化に関する研究	要藤 裕孝	小児科学講座	300,000	補委	日本医療研究開発機構
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	下濱 俊	神経内科学講座	1,200,000	補委	日本医療研究開発機構
社会的ひきこもりの長期化打開のためのエビデンスに基づく家族向け教育支援モデルの構築	館農 勝	神経精神医学講座	199,999	補委	日本医療研究開発機構
大量メチルコバリン筋注によるALSの治療薬開発研究	下濱 俊	神経内科学講座	1,380,000	補委	日本医療研究開発機構
対策型検診を目指した大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験	山野 泰徳	消化器内科学講座	156,000	補委	日本医療研究開発機構
脳脊髄液減少症の非典型例及び小児例の診断・治療法開拓に関する研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	214,500	補委	日本医療研究開発機構
高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	130,000	補委	日本医療研究開発機構
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	325,000	補委	日本医療研究開発機構
乳がん治療における心臓合併症の画像診断を用いた新たなリスク因子探索と心機能評価法標準化に関する研究-Cardio-oncologyの実践	矢野 俊之	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	200,001	補委	日本医療研究開発機構
H30コリスチン耐性菌の出現状況と特性解析に関する研究	高橋 聡	感染制御・臨床検査医学講座	850,000	補委	食品安全委員会
H30子どもの健康と環境に関する全国調査北海道ユニットセンター委託業務(エコチル調査)	馬場 剛	産科周産期科学	300,000	補委	北海道大学

計151

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Furuhashi M, Mori K, Tanaka M, et al.	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	Unexpected high plasma xanthine oxidoreductase activity in female subjects with low levels of uric acid.	Endocr J. 2018;65:1083-1092.	Original Article
2	Yano T, Yamamoto M, Mochizuki A, et al.	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	Successful Transcatheter Diagnosis and Medical Treatment of Right Atrial Involvement in IgG4-related Disease.	Int Heart J. 2018;59:1155-1160.	Case report
3	Furuhashi M, Matsumoto M, Tanaka M, et al.	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	Plasma Xanthine Oxidoreductase Activity as a Novel Biomarker of Metabolic Disorders in a General Population.	Circ J. 2018;82:1892-1899.	Original Article
4	Katano S, Hashimoto A, Ohori K, et al.	リハビリテーション部	Nutritional Status and Energy Intake as Predictors of Functional Status After Cardiac Rehabilitation in Elderly Inpatients With Heart Failure – A Retrospective Cohort Study.	Circ J. 2018;82:1584-1591.	Original Article
5	Furuhashi M, Yuda S, Muranaka A, et al.	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	Circulating Fatty Acid-Binding Protein 4 Concentration Predicts the Progression of Carotid Atherosclerosis in a General Population Without Medication.	Circ J. 2018;82:1121-1129.	Original Article
6	Yamashita T, Shimizu S, Koyama M, et al.	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	Screening of primary aldosteronism by clinical features and daily laboratory tests: combination of urine pH, sex, and serum K.	J Hypertens. 2018;36:326-334.	Original Article
7	Takahashi Y, Saito A, Takahashi H, et al.	呼吸器・アレルギー内科学講座	Impaired diversity of the lung microbiome predicts progression of idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Res. 2018 Feb 27;19(1):34.	Original Article
8	Kuronuma K, Honda H, Takahashi H, et al.	呼吸器・アレルギー内科学講座	Response to pneumococcal vaccine in interstitial lung disease patients: Influence of systemic immunosuppressive treatment.	Vaccine. 2018 Aug 9;36(33):4968-4972.	Original Article
9	Honda H, Sato T, Takahashi H, et al.	呼吸器・アレルギー内科学講座	Multiclonal expansion and high prevalence of β -lactamase-negative high-level ampicillin-resistant Haemophilus influenzae in Japan, and susceptibility to quinolones.	Antimicrob Agents Chemother. 2018 Aug 27;62(9). pii: e00851-18.	Original Article
10	Ibata S, Kobune M, Kikuchi S, et al.	腫瘍内科	High expression of nucleoporin 133 mRNA in bone marrow CD138+ cells is a poor prognostic factor in multiple myeloma	Oncotarget. 2018 May 18;9(38):25127-25135	Original Article
11	Sato M, Miyanishi K, Tanaka S, et al.	腫瘍内科	Increased Duodenal Iron Absorption through Upregulation of Ferroportin 1 due to the Decrement in Serum Hepcidin in Patients with Chronic Hepatitis C.	Can J Gastroenterol Hepatol. 2018 Aug 14;2018:2154361	Original Article
12	Ohnuma H, Sato Y, Hayasaka N, et al.	腫瘍内科	Neoadjuvant chemotherapy with docetaxel, nedaplatin and fluorouracil for resectable esophageal cancer: A phase II study.	Cancer Sci. 2018 Nov;109(11):3554-3563. doi: 10.11112	Original Article
13	Sakurada A, Miyanishi K, Tanaka S, et al.	腫瘍内科	An Intronic Single Nucleotide Polymorphism in the MUTYH Gene Is Associated with Increased Risk for HCV-induced Hepatocellular carcinoma	Free Radic Biol Med. 2018 Dec;129:88-96	Original Article
14	Arihara Y, Murase K, Takada K, et al.	腫瘍内科	Trastuzumab-Based Combination Chemotherapy in Patients with Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-Positive Metastatic Carcinoma ex Pleomorphic Adenoma	Case Rep Oncol. 2018 Dec 11;11(3):835-841	Case report
15	Miyanishi K, Tanaka S, Sakamoto H, et al.	腫瘍内科	The role of iron in hepatic inflammation and hepatocellular carcinoma.	Free Radic Biol Med. 2019 Mar;133:200-205	Original Article
16	Yoshida M, Horiguchi H, Kikuchi S, et al.	腫瘍内科	miR-7977 inhibits the Hippo-YAP signaling pathway in bone marrow mesenchymal stromal cells.	PLoS One. 2019 Mar 5;14(3):e0213220	Original Article

17	Manabe T, Matsumura A, Yokokawa K, etc	神経内科学教室	Evaluation of Mitochondrial Oxidative Stress in the Brain of a Transgenic Mouse Model of Alzheimer's Disease by in vitro Electron Paramagnetic Resonance Spectroscopy.	J Alzheimers Dis. 2019;67(3):1079-1087. doi: 10.3233/JAD-180985.	original Article
18	Fujikura M, Iwahara N, Hisahara S, etc	神経内科学教室	CD14 and Toll-Like Receptor 4 Promote Fibrillar A β 42 Uptake by Microglia Through A Clathrin-Mediated Pathway.	J Alzheimers Dis. 2019;68(1):323-337. doi: 10.3233/JAD-180904.	original Article
19	Shimohama S, Kawamata J.	神経内科学教室	Roles of Nicotinic Acetylcholine Receptors in the Pathology and Treatment of Alzheimer's and Parkinson's Diseases.	Singapore: Springer; 2018. Chapter 8. 2018 Apr 4.	original Article
20	島 宏彰	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	Case report: Long-term survival of a pancreatic cancer patient immunized with an SVN-2B peptide vaccine	Cancer Immunol Immunother 2018 Oct	Case report
21	秋月 恵美	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	Validation of the Japanese Version of the Low Anterior Resection Syndrome Score.	World J Surg. 2018 Aug	Original Article
22	今村 将史	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	Current status of projects for developing cancer-related clinical practice guidelines in Japan and recommendations for the future.	International Journal of Clinical Oncology 2018 Aug	Original Article
23	Nagahara D, Fujito T, Mochizuki A, et al.	感染制御・臨床検査医学講座兼循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	Predictors of appropriate ICD therapy in Japanese patients with structural heart diseases: A major role of prior sustained ventricular tachycardia in secondary prevention.	J Arrhythm. 2018;34:527-535.	Original Article
24	Sato H	心臓血管外科	New predictor of aortic enlargement in uncomplicated type B aortic dissection based on elliptic Fourier analysis.	Eur J Cardiothorac Surg. 2017 Dec 1;52(6):1118-1124	Original Article
25	中島智博	心臓血管外科	心筋viability評価にFDG PET-CTが有用であった1例	日本心臓血管外科学会雑誌 (0285-1474)47巻3号 Page123-127(2018.05)	Case report
26	内山博貴	心臓血管外科	食道癌術後に発症したStanford A型急性大動脈解離の1例	日本心臓血管外科学会雑誌 (0285-1474)47巻4号 Page192-195(2018.07)	Case report
27	伊藤寿朗	心臓血管外科	凝固第XIII因子製剤が止血に有効であった解離性大動脈瘤が原因の播種性血管内凝固症候群の一例	日本血管外科学会雑誌 (0918-6778)27巻3号 Page247-250(2018.06) 抄録を見る	Case report
28	三上拓真	心臓血管外科	解離性大動脈瘤術後の残存解離拡大に対してCandy Plug法を用いて血管内治療を行った1例	日本血管外科学会雑誌 (0918-6778)27巻5号 Page359-362(2018.10)	Case report
29	黒田陽介	心臓血管外科	胸部大動脈ステントグラフト内挿術における肋間動脈閉塞本数は術後脊髄虚血の予測因子となるか?(Is the number of covered intercostal arteries a predictor of postoperative spinal cord ischemia after thoracic endovascular aortic repair?)	札幌医学雑誌 (0036-472X)87巻1-6号 Page85-92(2018.12)	Original Article
30	Tada M, Sumi T, Tanaka Y, et al.	呼吸器外科	MCL1 inhibition enhances the therapeutic effect of MEK inhibitors in KRAS-mutant lung adenocarcinoma cells.	Lung Cancer. 2019 Jul; 133: 88-95.	Original Article
31	Tada M, Miyajima M, Mishina T, et al.	呼吸器外科	Thoracoscopic Right Basilar Segmentectomy After Right Upper Lobectomy.	Ann Thorac Surg. 2019 Feb (オンライン)	Case report
32	多田周、高橋有毅、楢龍之輔、他	呼吸器外科	左肺全摘後、体外式肺補助下に胸腔鏡下右肺区域切除を行った1例。	肺癌. 2018 Aug; 58: 298-302.	Case report
33	Takahashi Y, Miyajima M, Mishina T, et al.	呼吸器外科	Thoracoscopic one-stage lobectomy and diaphragmatic plication for T3 lung cancer.	J Cardiothorac Surg. 2018 Jul 9;13(1):86.	Case report
34	Miyajima M, Watanabe A, Sato T, et al.	呼吸器外科	What factors determine the survival of patients with an acute exacerbation of interstitial lung disease after lung cancer resection?	Surg Today. 2018 Apr;48(4):404-415.	Original Article

35	植 龍之輔, 杉田 真太郎, 小野 祐輔、他	呼吸器外科	p40陰性肺類基底細胞型扁平上皮癌の1例	胸部外科. 2018; 71(7): 547-550	Case report
36	高橋 有毅, 宮島 正博, 辻脇 光洋、他	呼吸器外科	特異な病態を呈した孤立性線維性腫瘍の3 例	日本呼吸器外科学会雑誌2019年 33 巻 1 号 p. 37-41	Case report
37	Maki R, Miyajima M, Mishina T, et al.	呼吸器外科	Truncus Superior Artery Ventral to the Apical Vein of the Right Upper Lobe.	Ann Thorac Surg. 2018 Jul;106(1):e39.	Others (Image)
38	Mishina T, Miyajima M, Watanabe A.	呼吸器外科	Reply to Suciu et al.	Eur J Cardiothorac Surg. 2018 Apr 1;53(4):896.	Letter
39	Ogon I	整形外科	Suppression of sympathetic nerve sprouting by local administration of an α -antagonist around the dorsal root ganglion in a lumbar radiculopathy model.	Spine 43: E321-E326, 2018	Original Article
40	Teramoto A	整形外科	The distal margin of the lateral malleolus visible under ankle arthroscopy (articular tip) from the anteromedial portal, is separate from the ATFL attachment site of the fibula: A cadaver study.	J Orthop Sci 23: 565-569, 2018.	Original Article
41	Watanabe K	整形外科	Modified distal tibial oblique osteotomy for osteoarthritis of the ankle: Operative procedure and preliminary results.	J Orthop Sci 2018. [Epub ahead of print]	Original Article
42	Murahashi Y	整形外科	Intra-articular administration of I κ B α kinase inhibitor suppresses mouse knee osteoarthritis via downregulation of the NF- κ B/HIF-2 α axis.	Sci Rep 8: 16475, 2018.	Original Article
43	Iba K	整形外科	Treatment of forearm deformity with radial head dislocation because of multiple osteochondromas: a series of three cases treated by simple axis correction and distraction osteogenesis of the ulna.	J Pediatr Orthop B 27: 315-321, 2018.	Original Article
44	Sakakibara Y	整形外科	Effect of Initial Graft Tension during Calcaneofibular ligament reconstruction on Ankle Kinematics and Laxity.	Am J Sports Med 46: 2935-2941, 2018.	Original Article
45	Yoshimoto M	整形外科	Mid-term clinical results of microendoscopic decompression for lumbar foraminal stenosis.	Spine Surg Relat Res 2018. [Epub ahead of print]	Original Article
46	Shoji H	整形外科	Suture-button fixation and anterior inferior tibiofibular ligament augmentation with suture-tape for syndesmosis injury: A biomechanical cadaveric study.	Clin Biomech 60: 121-126, 2018.	Original Article
47	Okada Y	整形外科	ACL Function in Bicruciate-Retaining Total Knee Arthroplasty.	J Bone Joint Surg Am 100: e114, 2018.	Original Article
48	Teramoto A	整形外科	Suture-Button Fixation and Mini-Open Anterior Inferior Tibiofibular Ligament Augmentation Using Suture Tape for Tibiofibular Syndesmosis Injuries.	J Foot Ankle Surg 57: 159-161, 2018.	Original Article
49	Takahashi N	整形外科	Sagittal band reconstruction in the index finger using a modified Elson technique.	J Orthop Surg 26: 2309499017749985, 2018.	Original Article
50	Oshigiri T	整形外科	Intravenous Infusion of Mesenchymal Stem Cells Alters Motor Cortex Gene Expression in a Rat Model of Acute Spinal Cord Injury.	J Neurotrauma 2018. [Epub ahead of print]	Original Article
51	Sasagawa A, Mikami T, Hirano T et al.	脳神経外科	Characteristics of cerebral hemodynamics assessed by CT perfusion in moyamoya disease.	J Clin Neurosci 47:183-189, 2018.	Original Article
52	Wanibuchi M, Kataoka-Sasaki Y, Sasaki M et al.	脳神経外科	Interleukin-13 receptor alpha 2 as a marker of poorer prognosis in high-grade astrocytomas.	J Neurosurg Sci 62:239-244, 2018.	Original Article
53	Wanibuchi M, Komatsu K, Akiyama Y et al.	脳神経外科	Effectiveness of the 3D Monitor System for Medical Education During Neurosurgical Operation.	World Neurosurg 109:e105-e109, 2018.	Original Article

54	Wanibuchi M, Ohtaki S, Oookawa S et al.	脳神経外科	Actin, alpha, cardiac muscle 1(ACTC1) knockdown inhibits the migration of glioblastoma cells in vitro.	J Neurol Sci 392:117–121, 2018.	Original Article
55	Mikami T, Tamada T, Suzuki H et al.	脳神経外科	Influence of hemodynamics on enlarged perivascular spaces in atherosclerotic large vessel disease.	Neurol Res 40:1021–1027, 2018.	Original Article
56	Mikami T, Suzuki H, Ukai R et al.	脳神経外科	Surgical Anatomy of Rats for the Training of Microvascular Anastomosis.	World Neurosurg 120:e1310–e1318, 2018.	Original Article
57	Akiyama Y, Kimura Y, Enatsu R et al.	脳神経外科	Advantages and Disadvantages of Combined Chemotherapy with Carmustine Wafer and Bevacizumab in Patients with Newly Diagnosed Glioblastoma: A Single-Institutional Experience.	World Neurosurg 113:e508–e514, 2018.	Original Article
58	Komatsu K, Wanibuchi M, Mikami T et al.	脳神経外科	Arterial Spin Labeling Method as a Supplemental Predictor to Distinguish Between High-and-Low-Grade Gliomas.	World Neurosurg 114:e495–e500, 2018.	Original Article
59	Kimura Y, Mikami T, Miyata K et al.	脳神経外科	Vascular assessment after clipping surgery using four-dimensional CT angiography.	Neurosurg Rev 42:107–114, 2018.	Original Article
60	Suzuki K, Wanibuchi M, Minamida Y et al.	脳神経外科	Heat generation by ultrasonic bone curette comparing with high-speed drill.	Acta Neurochir(Wien) 160:721–725, 2018.	Original Article
61	Kanno A, Enatsu R, Oookawa S et al.	脳神経外科	Location and Threshold of Electrical Cortical Stimulation for Functional Brain Mapping.	World Neurosurg 119:e125–e130, 2018.	Original Article
62	Kanno A, Enatsu R, Oookawa S et al.	脳神経外科	Interhemispheric Asymmetry of Network Connecting Between Frontal and Temporoparietal Cortices: A Corticocortical-Evoked Potential Study.	World Neurosurg 120:e628–e636, 2018.	Original Article
63	Oookawa S, Wanibuchi M, Kataoka-Sasaki Y et al.	脳神経外科	Digital Polymerase Chain Reaction Quantification of SERPINA1 Predicts Prognosis in High-Grade Glioma.	World Neurosurg 111:e783–e789, 2018.	Original Article
64	Kuribara T, Haraguchi K, Ohtaki S et al.	脳神経外科	Progressive edematous lesions in subacute phase after neuroendovascular therapy.	Surg Neurol Int 9:173, 2018.	Case report
65	Suzuki Y, Enatsu R, Kanno A et al.	脳神経外科	The auditory cortex network in the posterior superior temporal area.	Clin Neurophysiol 129:2132–2136, 2018.	Original Article
66	Yokoyama R, Mikami T, Ukai R et al.	脳神経外科	Interdisciplinary Prevention and Management of Wound-Related Complications in Extracranial-to-Intracranial Bypass Surgery.	World Neurosurg 115:247–253, 2018.	Original Article
67	Suzuki H, Mikami T, Enatsu R et al.	脳神経外科	Gelastic attack in a child with moyamoya disease.	Neurology 91:141–142, 2018.	Case report
68	Suzuki H, Enatsu R, Kanno A et al.	脳神経外科	Threshold and distribution of afterdischarges with electrical cortical stimulation.	J Clin Neurosci 55:71–75, 2018.	Original Article
69	Takahashi Y, Mikami T, Suzuki H et al.	脳神経外科	Development of moyamoya disease after non-herpetic acute limbic encephalitis: A case of report.	J Clin Neurosci 53:250–253, 2018.	Case report
70	Hirano T, Mikami T, Suzuki H et al.	脳神経外科	Occipital Artery to Middle Cerebral Artery Bypass in Cases of Unavailable Superficial Temporal Artery.	World Neurosurg 112:101–108, 2018.	Case report
71	Imataka S, Akiyama Y, Yokoyama R et al.	脳神経外科	Transdural Propagation of Glioblastoma Through Foramen Rotundum.	World Neurosurg 111:240–242, 2018.	Case report
72	Yamaoka A, Miyata K, Bunya N et al.	脳神経外科	Traumatic Basilar Artery Entrapment without Longitudinal Clivus Fracture: A Case Report and Review of the Literature.	Neurol Med Chir(Tokyo) 58:362–367, 2018.	Case report

73	Tamada T, Enatsu R, Kikuchi N et al.	脳神経外科	Meningioma mimicking an intraparenchymal cystic tumor.	Nagoya J Med Sci 80:431-434, 2018.	Case report
74	Tamada T, Mikami T, Akiyama Y et al.	脳神経外科	Giant petrous internal carotid aneurysm causing epistaxis: A case report.	J Clin Neurosci 58:221-223, 2018.	Case report
75	Saitoh T, Enatsu R, Mikami T et al.	脳神経外科	Peri-electrode edema after deep brain stimulation.	J Clin Neurosci 59:29-31, 2019.	Original Article
76	Sakashita K, Miyata K, Yamaoka A et al.	脳神経外科	A case of multiple infectious intracranial aneurysms concurrently presenting with intracerebral hemorrhage and epistaxis.	Interdisciplinary Neurosurgery 14:93-96, 2018.	Case report
77	Shiraishi M, Ishii T, Kigawa Y et al.	神経精神科	Psychiatric consultation at an emergency department in a metropolitan university hospital in Northern Japan.	Psychiatry Investigation, 2018 Jul; 15: 739-42	Others
78	Tateno M, Teo AR, Shiraishi M et al.	神経精神科	Prevalence rate of internet addiction among Japanese college students: two cross-sectional studies and reconsideration of cut-off points of young' s internet addiction in Japan.	Psychiatry Clin Neurosci, 2018 Sep; 72: 723-30	Original Article
79	Kato J, Hida T, Someya M,et al.	皮膚科	Efficacy of combined radiotherapy and anti-programmed death 1 therapy in acral and mucosal melanoma.	J Dermatol. 2019 Feb;46(2): 328-333.	Original Article
80	Kato J, Hida T, Horimoto K,et al.	皮膚科	Successful rechallenge with nivolumab therapy after radiotherapy in mucosal melanoma.	J Dermatol. 2019 Feb;46(2):e72-e73.	Letter
81	Hida T, Okura M, Kobayashi K,et al.	皮膚科	Docetaxel therapy for classic Kaposi's sarcoma.	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e81-e82.	Letter
82	Handa T, Kamiya T, Sumikawa Y,et al.	皮膚科	Decrease of Anti-DSG3. But Not Anti-DSG1 Antibody, After Cessation of Sitagliptin Treatment in a Patient With Pemphigus Vulgaris.	JAMA Dermatol. 2019 Mar 1;155(3):391-393.	Case report
83	Yoshikawa M, Kamiya T, Sumikawa Y, Uhara H	皮膚科	Unique dermoscopic feature of a long-standing pencil core granuloma on the head.	J Dermatol. 2019 May;46(5):e172-e173.	Letter
84	Uhara H, Kiyohara Y, Tsuda A,et al.	皮膚科	Characteristics of adverse drug reactions in a vemurafenib early post-marketing phase vigilance study in Japan.	Clin Transl Oncol. 2018 Feb;20(2):169-175.	Original Article
85	Uhara H	皮膚科	Recent advances in therapeutic strategies for unresectable or metastatic melanoma and real-world data in Japan.	Int J Clin Oncol. 2018 Feb(オンライン)	Review
86	Sawada M, Kato J, Yamashita T,et al.	皮膚科	Imiquimod 5% cream as a therapeutic option for extramammary Paget's disease.	J Dermatol. 2018 Feb;45(2):216-219.	Original Article
87	Sawada M, Hida T, Ujiie H,et al.	皮膚科	A case of subepidermal autoimmune bullous disease with autoantibodies against 200 and 290-kDa antigens.	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2018 Sep;32(9):e354-e355.	Case report
88	Minowa T, Kato J, Hida T,et al.	皮膚科	Prognostic role of neutrophil to lymphocyte ratio in advanced melanoma treated with anti-programmed death-1 therapy.	J Dermatol. 2018 Sep;45(9):e250-e251.	Letter
89	Minowa T, Kato J, Hida T,et al.	皮膚科	Prognostic role of platelet to lymphocyte and lymphocyte to monocyte ratios in advanced melanoma treated with anti-programmed death-1.	Eur J Dermatol. 2018 Oct 1;28(5):705-707.	Original Article
90	Minowa T, Kato J, Hida T,et al.	皮膚科	Granulocyte colony-stimulating factor-producing melanoma treated with the combination of dabrafenib and trametinib.	Int J Dermatol. 2018 Jul;57(7):e31-e33.	Letter
91	Kato J, Hida T, Yamashita T,et al.	皮膚科	Successful TS-1 monotherapy as the second-line treatment for advanced extramammary Paget's disease: A report of two cases.	J Dermatol. 2018 Jan;45(1):80-82.	Case report

92	Kato J, Hida T, Sugita S, et al.	皮膚科	Cytokeratin 19 expression is a risk factor for metastasis in cutaneous squamous cell carcinoma.	J Eur Acad Dermatol Venerol. 2018 Jul;32(7):e299–e301.	Original Article
93	Kato J, Hida T, Kamiya T, et al.	皮膚科	Rechallenge With Nivolumab After Vemurafenib Treatment of Initially Nivolumab-Resistant Advanced Melanoma.	JAMA Dermatol. 2018 May 1;154(5):621–622.	Letter
94	Kamiya S, Kato J, Kamiya T, et al.	皮膚科	Association between PD-L1 expression and lymph node metastasis in cutaneous squamous cell carcinoma.	Asia Pac J Clin Oncol. 2018 Nov(オンライン)	Letter
95	Horimoto K, Kato J, Sumikawa Y, et al.	皮膚科	Dermoscopic features distinctive for extraocular sebaceous carcinoma.	J Dermatol. 2018 Apr;45(4):487–490.	Original Article
96	Hida T, Takahashi H, Takada K, et al.	皮膚科	Halo formations around senile hemangiomas in diffuse plane normolipemic xanthomatosis associated with monoclonal gammopathy.	JAAD Case Rep. 2018 Nov 10;4(10):1034–1036.	Case report
97	Hida T, Sato S, Okura M, et al.	皮膚科	Nevus cells of cardiofaciocutaneous syndrome bear BRAF germ-line and somatic double mutations.	Eur J Dermatol. 2018 Oct 1;28(5):704–705.	Letter
98	Hida T, Okura M, Kobayashi K, et al.	皮膚科	Xeroderma pigmentosum group D: Report of a novel combination of ERCC2 variations and its phenotype.	J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e81–e82.	Letter
99	Takano K, Okuni T, Yamamoto K, et al.	耳鼻咽喉科	Potential utility of core needle biopsy in the diagnosis of IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis.	Mod Rheumatol 9:1–4, 2018.	Original Article
100	Kamekura R, Takahashi H, Ichimiya S	耳鼻咽喉科	New insights into IgG4-related disease – emerging new CD4+ T cell subsets.	Curr Opin Rheumatol 2018	Original Article
101	Kamekura R, Yamamoto M, Takano K, et al.	耳鼻咽喉科	Circulating PD-1+CXCR5-CD4+ T cells underlying the immunological mechanisms of IgG4-related disease.	Rheumatol Adv Pract. 2018	Original Article
102	Ogasawara N, Klingler AI, Tan BK, et al.	耳鼻咽喉科	Epithelial activators of type 2 inflammation; elevation of TSLP, but not IL-25 or IL-33, in chronic rhinosinusitis with nasal polyps in Chicago, Illinois.	Allergy. 73: 2251–2254, 2018.	Original Article
103	Yamamoto K, Ogasawara N, Yamamoto S, et al.	耳鼻咽喉科	Evaluation of consistency in quantification of gene copy number by real-time reverse transcription quantitative polymerase chain reaction and virus titer by plaque-forming assay for human respiratory syncytial virus.	Microbiol Immunol. 62: 90–98, 2018.	Original Article
104	Yamamoto K, Takano K, Kondo A, et al.	耳鼻咽喉科	Clinical and Prognostic Analysis of Hypopharyngeal Squamous Cell Carcinoma with Synchronous and Metachronous Multiple Malignancies.	In Vivo. 32: 165–170, 2018.	Original Article
105	Yajima R, Takano K, Konno T, et al.	耳鼻咽喉科	Mechanism of fibrogenesis in submandibular glands in patients with IgG4-RD.	J Mol Histol. 49: 577–587, 2018.	Original Article
106	Takahashi K, Sawada A, Iwasaki S, Yama N, Takahashi H, Onodera M, Hatakenaka M, Yamakage M.	麻酔科	Three cases of implantation of a SureScan® system and MRI for investigating causes of pain.	J Anesth 2017;31:915–7	Others
107	Kawanishi C, Ishii T, Yonemoto N, et al.	放射線治療科	Protocol for a prospective multicentre registry cohort study on suicide attempters given the assertive case management intervention after admission to an emergency department in Japan: post-ACTION-J Study (PACS).	BMJ Open. 2016 Oct(オンライン)	Others
108	Nakamura H, Sasaki Y, Sasaki M, et al.	神経再生医療科	Elevated brain derived neurotrophic factor levels in plasma reflect in vivo functional viability of infused mesenchymal stem cells for stroke in rats.	J Neurosurg Sci. 2019 Feb;63(1):42–49	Original Article
109	Nagahama H, Nakazaki M, Sasaki M, et al.	神経再生医療科	Preservation of interhemispheric cortical connections through corpus callosum following intravenous infusion of mesenchymal stem cells in a rat model of cerebral infarction.	Brain Res. 2018 Sep 15;1695:37–44.	Original Article
110	Namioka A, Namioka T, Sasaki M, et al.	神経再生医療科	Intravenous infusion of mesenchymal stem cells for protection against brainstem infarction in a persistent basilar artery occlusion model in the adult rat.	J Neurosurg. 2018 Oct 1:1–9.	Original Article

111	Namioka T, Namioka A, Sasaki M, et al.	神経再生医療科	Intravenous infusion of mesenchymal stem cells promotes functional recovery in a rat model of chronic cerebral infarction.	J Neurosurg. 2018 Oct 1:1-8.	Original Article
112	Segawa K, Sugita S, Aoyama T, et al.	病理診断科	Detection of specific gene rearrangements by fluorescence in situ hybridization in 16 cases of clear cell sarcoma of soft tissue and 6 cases of clear cell sarcoma-like gastrointestinal tumor.	Diagn Pathol 2018 Sep 13: 73	Original Article
113	Kubo T, Hirohashi Y, Fujita H, et al.	病理学第一講座	Occult ovarian clear-cell carcinoma diagnosed as primary adenocarcinoma of the lung: A case report of a diagnostic pitfall for clinicians and pathologists.	Respir Med Case Rep 2018 Oct 25: 306-30	Case report
114	Kubo T, Tsujiwaki M, Hirohashi Y, et al.	病理学第一講座	Differential bronchial epithelial response regulated by ΔNp63: a functional understanding of the epithelial shedding found in asthma.	Lab Invest 2019 Feb 99: 158-168	Original Article
115	Aoyama T, Takasawa A, Takasawa K, et al.	病理診断科	Identification of coiled-coil domain-containing protein 180 and leucine-rich repeat-containing protein 4 as potential immunohistochemical markers for liposarcoma based on proteomic analysis using formalin-fixed, paraffin-embedded tissue.	Am J Pathol 2019 May 189: 1015-1028	Original Article
116	Sugita S, Kubo T, Aoyama T, et al.	病理診断科	Imprint cytology of biphenotypic sinonasal sarcoma of the paranasal sinus: A case report.	Diagn Cytopathol 2019 May 47: 507-511	Case report
117	Usami Y, Hirokawa N, Saitoh M, et al.	放射線治療科	Histopathological differences of experimental aneurysms treated with bare platinum, fibered, and bioactive coils.	Minim Invasive Ther Allied Technol. 2018 June; 16: 1-6	Original Article
118	Fukushima Y, Someya M, Nakata K, et al.	放射線治療科	Influence of PD-L1 expression in immune cells on the response to radiation therapy in patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma.	Radiother Oncol. 2018 Sep; 129: 409-414	Original Article
119	Onodera K, Hatakenaka M, Yama N, et al.	放射線診断学	Repeatability analysis of ADC histogram metrics of the uterus.	Acta Radiologica. 2018 Jan; 1: 284185118786062.	Original Article
120	Takahashi N, Iba K, Yamashita T., et al.	救急医学講座	Sagittal band reconstruction in the index finger using a modified Elson technique	J Orthop Surg. 2018; 26(1)	Original Article
121	Inoue H, Uemura S, Harada K.,et al.	救急医学講座	Risk factors for acute pancreatitis in patients with accidental hypothermia	Am J Emerg Med. 2018 May 9	Original Article
122	Naofumi Bunya, Keigo Sawamoto, Ryuichiro Kakizaki, et al.	救急医学講座	Successful resuscitation for cardiac arrest due to severe accidental hypothermia accompanied by mandibular rigidity: a case of cold stiffening mimickingrigor mortis	International journal of emergency medicine 2018; 11: 46.	Case report
123	Masayuki Akatsuki,Hroomi Tatsumi,Shinichiro Yoshida,et al.	集中治療部	Effect of Rapid Response System on Unplanned Intensive Care Unity Admission after Elective Surgery.	J Surg Anesth 2018;(オンライン)	Original Article
124	Satoshi Kazuma,Yasuyuki,Tokina ga,Yukimasa Takeda,et al.	集中治療部	Desflurane inhibits endothelium-dependent vasodilation more than sevoflurane with inhibition of endothelial nitric oxide synthase by different mechanisms.	Biochem Biophys Res Commun 495,217-222,2018	Original Article

125	Hiroyuki Takashima, Tsuneo Takebayashi, MD, Izaya Ogon, et.al.	放射線部	Analysis of intra and extramyocellular lipids in the multifidus muscle in patients with chronic low back pain using MR spectroscopy	the British Institute of Radiology 2018 Jan; 91(1083): 20170536	Original Article
126	Hiroyuki Takashima, Tsuneo Takebayashi, Mitsunori Yoshimoto, et.al.	放射線部	The Difference in Gender Affects the Pathogenesis of Ligamentum Flavum Hypertrophy	Spine Surg Relat Res 2018; 2(4): 263-269	Original Article
127	Takashima, H., Yanagida, M., Imamura, R. et al.	放射線部	Optimization of MR Signal Contrast of the Lumbar Cartilaginous Endplates Using Ultra-Short TE	Appl Magn Reson (2019) 50: 381.	Original Article
128	Akatsuka, Y., Teramoto, A., Takashima, H. et al.	放射線部	Morphological evaluation of the calcaneofibular ligament in different ankle positions using a three-dimensional MRI sequence.	Surg Radiol Anat (2019) 41: 307.	Original Article

128

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hirota R	整形外科	Comparison of health-related quality of life between double-door laminoplasty and selective laminoplasty for degenerative cervical myelopathy with minimum follow-up of 5 years.	Spine 2018.[Epub ahead of print]	Original Article
2	Iba K	整形外科	Improvement in the rate of inadequate pharmaceutical treatment by orthopaedic surgeons for the prevention of a second fracture over the last 10 years.	J Orthop Sci 23: 127-131, 2018.	Original Article
3	Kamiya T	整形外科	Midterm outcomes after arthroscopic surgery for hypermobile lateral meniscus in adults	J Orthop Sci 23: 1000-1004, 2018.	Original Article
4	Shimizu J	整形外科	Chondrosarcoma mimicking MRI of the osteonecrosis of the femoral head: a case report.	BJR Case Rep 4: 20170098, 2018.	Case report
5	Shimizu J	整形外科	Arthroscopic Resection for Benign Fibrous Histiocytoma in the Epiphysis of the Femur.	Case Rep Orthop 8030862, 2018.	Case report
6	Dohke T	整形外科	Teriparatide rapidly improves pain-like behavior in ovariectomized mice in association with the downregulation of inflammatory cytokine expression.	J Bone Miner Metab 36: 499-507, 2018.	Original Article
7	Saito A	整形外科	Umbilical cord extracts improve osteoporotic abnormalities of bone marrow-derived mesenchymal stem cells and promote their therapeutic effects on ovariectomized rats.	Sci Rep 8: 1161, 2018.	Original Article
8	Murahashi Y	整形外科	Intra-articular administration of I κ B α kinase inhibitor suppresses mouse knee osteoarthritis via downregulation of the NF- κ B/HIF-2 α axis.	Sci Rep 8: 16475, 2018.	Original Article
9	Shimizu J	整形外科	A Case Report of Vertebral Osteomyelitis Caused by Peptostreptococcus micros.	J Orthop Case Reports 8: 7-9, 2018.	Case report
10	Nagoya S	整形外科	Restoration of proximal periprosthetic bone loss by denosumab in cementless total hip arthroplasty.	European J Orthopaedic Surg & Traumatol 2018. [Epub ahead of print]	Original Article
11	Sakakibara Y	整形外科	Early surgical management of traumatic dislocation of the tibialis posterior tendon: a case report and review of the literature.	J Med Case Rep 12: 348, 2018.	Case report
12	Ozasa Y	整形外科	Surgical treatment for partial rupture of the distal biceps tendon using palmaris longus tendon graft: A case report.	Acta Orthop Traumatol Turc 52: 323-325, 2018.	Original Article
13	Shoji H	整形外科	Radiographic assessment and clinical outcomes after total knee arthroplasty using an accelerometer-based portable navigation device.	Arthroplast Today 4: 319-322, 2018.	Original Article

14	Fukushi R	整形外科	Short-term results of microendoscopic muscle-preserving interlaminar decompression versus spinal process splitting laminectomy.	J Neurol Surg A 79: 511-517, 2018.	Original Article
15	Yoshimoto M	整形外科	A case of acute intervertebral disc herniation into the both upper and lower vertebral body.	Spine Surg Relat Res 2018. [Epub ahead of print].	Original Article
16	Fukushi R	整形外科	Repetitive vertebral fractures in patients with ankylosing spinal disorders : A report of two cases	Spine Surg Relat Res 2018. [Epub ahead of print]	Case report
17	Ogon I	整形外科	Analysis of neuropathic pain with magnetic resonance imaging T2 mapping of intervertebral disc in chronic low back pain.	Asian Spine J 2018. [Epub ahead of print]	Original Article
18	Shiwaku K	整形外科	No difference in initial fixation or 1-year outcomes with outside in metallic or bioabsorbable interference femoral screws in rectangular tunnel bone-patellar tendon-bone graft for anterior cruciate ligament reconstruction.	Journal of ISAKOS 3: 323-327, 2018.	Original Article
19	Ogon I	整形外科	Quantitative analysis concerning atrophy and fat infiltration of multifidus muscle with magnetic resonance spectroscopy in chronic low back pain	Spine Surg Relat Res 2018. [Epub ahead of print].	Original Article
20	Hirota R	整形外科	A case of ankylosing spinal hyperostosis with massive hemothorax due to thoracic vertebral fracture caused by minor trauma.	Spine Surg Relat Res 2018.[Epub ahead of print]	Case report
21	Watanabe K	整形外科	Medical Services at the 2017 Sapporo Asian Winter Games: Injury and illness epidemiology at a 34-nation multi-sport event.	Br J Sports Med 2018. [Epub ahead of print]	Original Article
22	Emori M	整形外科	Nodular fasciitis involving the palm: A report of two cases.	Ann R Coll Surg Engl 16: e1-4, 2018.	Case report
23	Teramoto A	整形外科	Investigation of factors related to the occurrence of osteochondral lesions of the talus by 3D bone morphology of the ankle.	Bone Joint J 100B: 1487-1490, 2018.	Original Article
24	Hanaka M	整形外科	Antagonists to TRPV1, ASICs and P2X have a potential role to prevent the triggering of regional bone metabolic disorder and pain-like behavior in tail-suspended mice.	Bone 110: 284-294, 2018.	Original Article
25	Kitagawa M, Someya M, Hasegawa T, et al.	放射線治療科	Influence of XRCC4 expression by breast cancer cells on ipsilateral recurrence after breast-conserving therapy.	Strahlenther Onkol. 2019 Jul; 195(7): 648-658	Original Article
26	蝶野大樹, 小野口昌久, 橋本暁佳	放射線部	Small heart における心電図同期心筋血流 SPECT を用いた左室拡張能評価: 心エコー法との比較	日本放射線技術学会雑誌 Vol.74 No.6, 572-579	Original Article
27	原田耕平, 大橋芳也, 千葉彩佳, 他	放射線部	逐次近似応用再構成を用いた低コントラスト検出能の評価を目的とした新しい digital phantom 作成ツールの開発	日本放射線技術学会雑誌 Vol.74 No.8, 769-778	Original Article

計27件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の責務、設置、構成、業務、運営等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の対象者、利益相反管理の対象、利益相反管理委員会、利益相反管理の実施手続等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 研究者に対し、臨床研究の倫理性確保と被験者保護のための研修会を年 2 回開催 研修会のテーマ：「臨床研究実施の際に考慮すべき倫理関連事項」、 「倫理指針と臨床研究法について」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- 後期研修・専門医制度プログラムは、専門医の取得を目指した研修です。そのため、志望する分野を専門とする診療科に所属し、基本的にその診療科を中心とする研修を受けていただきます。また、多くの学会の認定教育施設となっているため、複数の専門医資格を取得することも可能です。
 - 領域
内科、皮膚科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、形成外科、病理科、総合診療科
- ※ 領域については、新専門医制度基本領域のみ。
(歯科口腔外科についても後期研修を行っています。)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	219人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高橋 弘毅	内科	教授	37年	
宇原 久	皮膚科	教授	32年	
竹政 伊知朗	外科	教授	25年	
齋藤 豪	産婦人科	教授	32年	
高野 賢一	耳鼻咽喉科	准教授	17年	教授不在のため
三國 信啓	脳神経外科	教授	29年	
山蔭 道明	麻酔科	教授	30年	
堀 司	小児科	准教授	25年	教授不在のため
河西 千秋	神経精神科	教授	29年	
山下 敏彦	整形外科	教授	35年	
大黒 浩	眼科	教授	34年	
舩森 直哉	泌尿器科	教授	30年	
畠中 正光	放射線科	教授	33年	
石合 純夫	リハビリテーション科	教授	35年	
成松 英智	救急	教授	31年	
四ッ柳 高敏	形成外科	教授	30年	
長谷川 匡	病理	教授	32年	
山本 和利	総合診療科	教授	40年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院病院長 土橋 和文
管理担当者氏名	総務課長 市川 晶一／病院課長 北野 ひろ子／医療連携福祉センター長 齋藤 豪／薬剤部長 宮本 篤／医療安全部長 舛森 直哉／感染制御部長 高橋 聡／医事経営管理部長 土橋 和文

			保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院課、各診療科、カルテ庫、各診療関係部科	病歴資料については、診療科毎に作成しカルテ庫で管理（一診療科一カルテ） エックス線写真については、各診療科とカルテ庫において保管管理 診療録を病院外に持ち出すことは禁止している。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	各診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
		高度の医療の研修の実績	病院課	
		閲覧実績	—	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携福祉センター	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事経営課及び薬剤部	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事経営課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事経営課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事経営課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事経営課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事経営課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	病院課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	病院課
		監査委員会の設置状況	病院課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携福祉センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全部
		職員研修の実施状況	各関係部課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	各関係部課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課 医事経営課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	経営企画課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲 覧 責 任 者 氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 塚本 泰司		
閲 覧 担 当 者 氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 市川 晶一		
閲 覧 の 求 め に 応 じ る 場 所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課		
閲覧の手続の概要			
・ 開示（閲覧）請求の受付			
・ 開示（閲覧）について内部決定			
・ 指定した日時・場所において担当職員立会のもと開示（閲覧）			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延0件
閲覧者別	医師	延0件
	歯科医師	延0件
	国	延0件
	地方公共団体	延0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」 本院における医療安全管理に関する基本方針を定めるとともに、院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について下記の10項目を規定している。 1 総則 2 医療安全管理のための体制 3 医療事故等に関する報告制度 4 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 5 安全管理のための教職員研修の実施 6 医療事故発生時の対応方法 7 患者相談窓口の設置 8 安全な医療を提供するためのマニュアル・ガイドライン等 9 本指針の閲覧 10 附則 ○H30.4.1改正 <ul style="list-style-type: none"> 医療法施行規則の改正に伴い、医療安全部の役割として、従業者の「医療安全に係る意識向上の状況確認」を追加。 ○H31.4.1改正 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理責任者ほか各種管理責任者の任命について明示するとともに、医療安全部の構成及び医療安全管理者（GRM）の業務内容について根拠法令の文言に基づき追加・修正。 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有 ） ・ 開催状況： 下記のとおり ・ 活動の主な内容： 下記のとおり ○医療事故防止対策委員会 （定例） 年12回 <ul style="list-style-type: none"> 医療事故等の発生原因の分析・再発防止策の検討及び指導等 * 検討結果は、院内へ周知徹底を図っている。 ○安全対策委員会 （定例） 年12回 <ul style="list-style-type: none"> 医療事故防止対策委員会から諮問された事項に係る具体的内容の検討、院内巡回による指導及び措置状況の確認、医療安全対策マニュアルの改訂等 ○リスクマネージャー連絡会議 （定例） 年6回 <ul style="list-style-type: none"> 院内で発生したインシデント・アクシデントや医療安全に係る情報の周知、上記委員会等で決定した安全対策の自部署へのフィードバック等 ○医療クオリティ審議委員会 （随時） 平成30年度実績：6回 <ul style="list-style-type: none"> 本院において発生した医療事故等に係る事実関係等の調査、その他必要な処置等 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年22回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全講演会（2回）、トピックス研修会（5回）、 感染対策講習会（2回）、AST講習会（2回）、 	

医療機器安全管理研修会（2回）、
医薬品・医療機器安全管理研修会（1回）、
院内BLS/AED講習会（5回）、ICLS講習会（1回）、
PICCハンズオントレーニング（1回）、
多職種コミュニケーション研修（1回）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ 有 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」において、医療事故等の区分を6段階にレベル分けして内容を整備し、院内報告の仕方や取扱いを明らかにするとともに、再発防止策の検討方法を規定している。また、死亡例全例の医療安全部への報告体制についても規定している。
 - 電子カルテシステム更新に伴い、従来のインシデント・アクシデントレポートシステムを「医療安全レポートシステム」に更新し、医師からの死亡症例報告や薬剤師からの疑義照会に係る集計処理を容易に実施できるようにした。
 - 各部署において「医療安全確保のための業務改善計画書」を作成し、下記の項目について取り組みを行った。各部署における実施状況は、医療事故防止対策委員会が全部署を巡回し、評価を行った。
 - ・ 診療部門
 - ① インフォームド・コンセントの適正な診療録への記載
 - ② 患者誤認防止対策
 - ・ 看護部門
 - ① インフォームド・コンセント後の患者・家族の反応とケアの記録
 - ② 患者誤認防止対策
 - ・ 中央部門及び事務部門
 - ① 患者誤認防止対策または自部署で考える院内安全対策
 - 安全対策委員会において、医療安全対策マニュアルの実施状況調査として、周術期における手術部位誤認防止の実施状況調査、侵襲的な検査処置での患者誤認防止及び外来での検査・処置・治療の患者誤認防止に係る院内巡回を行った。
また、病棟部門においては、「リスクマネージャーによる病棟相互の医療安全ラウンド」として、患者確認方法、マニュアル周知方法、職員教育等、安全及び5Sの視点でスタッフの実践状況を確認した。
 - 医療安全対策に関して医療関係者の意識の向上と組織的な取組を図る目的で医療安全推進週間を設定し、「医療安全講演会」・「PICCカテーテルハンズオントレーニング～安全なエコー下手技～」・「World Caf6で体感する多職種コミュニケーション」・「医療安全大賞」の企画を実施した。
 - 「インフォームド・コンセントのための基本方針」に基づき、各診療科が診療説明書・同意書の見直しを行った後、医療事故防止対策委員会による審査を行い改訂した。
 - 各診療科において、「高度な手術・検査等の安全確保の徹底に向けた策定条件」の項目、術者の条件の設定について見直しを行った。
 - 院内においてインスリン関連のインシデントが発生したことを受け、事例内容について分析・検討し、インスリン用シリンジの規格を100単位から50単位のものへ変更した。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>札幌医科大学附属病院院内感染対策指針」 札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規定したものである。 院内感染対策についての意識の向上に資するものである。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</td> <td>2. 院内感染対策のための管理体制・組織</td> </tr> <tr> <td>3. 院内感染対策のための職員研修</td> <td>4. 感染症の発生状況の報告</td> </tr> <tr> <td>5. 院内感染発生時の対応</td> <td>6. 患者等に対する本指針の閲覧</td> </tr> <tr> <td>7. その他の院内感染対策の推進</td> <td></td> </tr> </table>		1. 院内感染対策に関する基本的考え方	2. 院内感染対策のための管理体制・組織	3. 院内感染対策のための職員研修	4. 感染症の発生状況の報告	5. 院内感染発生時の対応	6. 患者等に対する本指針の閲覧	7. その他の院内感染対策の推進	
1. 院内感染対策に関する基本的考え方	2. 院内感染対策のための管理体制・組織								
3. 院内感染対策のための職員研修	4. 感染症の発生状況の報告								
5. 院内感染発生時の対応	6. 患者等に対する本指針の閲覧								
7. その他の院内感染対策の推進									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内における感染情報の周知及び分析 ・ 感染防止の対応報告及び検討・原因究明 ・ 抗菌薬使用状況 ・ その他院内感染対策に関する事項 									
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 14回								
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院感染対策講習会 2回：全職員を対象とする ・ 清掃委託業者における病院感染対策講習会 2回：清掃委託業者全員を対象とする ・ 研修医への講義 1回：新規採用研修医を対象とする ・ 新規採用看護師への講義 1回：新規採用された看護師全員を対象とする ・ 中途採用者への講義 8回：年度途中の異動および採用された職員全員を対象とする 									
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況									
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「感染症発症連絡票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている ・ 検査部（細菌検査）からの報告を、感染対策ソフトも用いて院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者などへ詳細報告を求めている <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染制御チームを設置し、院内感染の状況、抗菌薬適正使用、診断に必要な検体採取状況、職員の感染対策実施の状況などを把握し、適宜介入を行っている ・ 感染制御チームによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている 									

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 新規採用看護職員研修（薬剤部の機能と役割） H30.4.3 新規採用看護職員 70名 ・ 臨床研修医オリエンテーション（医薬品の適正処方と適正使用） H30.4.4 研修医 30名 ・ トピックス研修（医薬品の安全管理体制）計2回 H30.4.18 4.26 全職員対象 149名 ・ 新人看護職員「他部門研修」（薬剤部の機能と役割）計4回 H30.9.20 9.21 10.4 10.17 新人看護職員 20名 ・ 医薬品・医療機器安全管理研修会（最近の事例とその対策） H30.9.27 全職員対象（DVD講習を含め） 1221名 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （有） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医薬品の採用購入 <ol style="list-style-type: none"> I 採用 II 購入 (2) 医薬品の管理方法 <ol style="list-style-type: none"> I 薬剤部での保管管理 <ol style="list-style-type: none"> 1. 調剤室 2. 薬品管理室 3. 製剤室 4. 麻薬管理室 II 病棟、外来部門等での医薬品の保管管理 III 医薬品の保管・管理チェック IV 記録・保存 (3) 投薬指示・調剤 <ol style="list-style-type: none"> I 投薬指示 II 調剤 (4) 患者への与薬や服薬指導 (5) 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い <ol style="list-style-type: none"> I 医薬品情報の収集 II 医薬品情報の提供 (6) 他施設との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報 その他の情報の収集 その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>【未承認（院内製剤）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 切除不能の原発・転移性皮膚悪性腫瘍へのMohs軟膏 ・ メンケス病に対するヒスチジン銅 ・ 0.025%カブサイシン軟膏 ・ 5%テーカイン軟膏、7%テーカイン軟膏 	

【適応外】抜粋

- ・ 進行性多巣性白質脳症（PML）に対するメフロキンの投与
- ・ 非全身性血管炎性ニューロパチー（NSVN）難治例に対するシクロホスファミド
- ・ 重症汎発性脱毛症に対するメトトレキサート内服治療
- ・ 分類不能型免疫不全症に伴う難治性腸症に対するインフリキシマブ療法
- ・ 抗NMDA受容体脳炎難治例に対するリツキシマブの使用
- ・ 進行胆道癌に対するゲムシタビン+シスプラチン+S-1併用療法

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

【医薬品に関する情報の整理・収集】

- ・ 指名した薬剤師が収集・整理した情報（DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、イエロー・ブルーレターやPMDA、m3.com、製薬企業等から得た情報）は、必要に応じてメール配信や紙媒体等で周知するよう指示しており、病棟においては情報が確実に周知されているか病棟担当薬剤師に確認させている。

【院内での副作用発生事例の収集方法】

- ・ 毎月発行のDrug Newsの紙面に「医薬品により副作用等の健康被害が発生した場合には薬剤部薬品情報室にお知らせください」のメッセージを表記し呼びかけている。
- ・ 病棟薬剤師などから副作用発生情報を収集（病棟薬剤師と医薬品情報室との情報共有会等を通じて報告を促している）
- ・ メーカーに当院から副作用報告があった場合にMRを通じて発生情報を収集。

【改善のための方策実施状況】

- ・ 毎週1回、30分程度、医療安全部専従薬剤師と共に、医薬品関連のインシデント報告を共有し、安全対策を要する案件について検討している。
- ・ スライディングスケール法による血糖管理について、インスリン用シリンジの目盛りを読み間違える例が発生したため、安全対策として、100単位（BD）のシリンジから50単位（テルモ）のシリンジへ採用を切り替えた。
- ・ 疑義照会事例で、常用量を逸脱した処方が多くみられたが、常用量の100倍を超えた場合にアラートが表示される設定となっており、ほとんどがアラート表示に至っていなかったため、設定を20倍に変更した。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有																																
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 6 回																																
<div>・ 研修の主な内容：人工心肺装置（2 回） 補助循環装置（2 回） 人工呼吸器（2 回） 血液浄化装置（2 回） 除細動器（2 回） 閉鎖式保育器（4 回） 診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置（2 回）</div>																																	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																	
<div>・ 医療機器に係る計画の策定（ 有 ）</div> <div>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</div> <table><tr><td>指定機器</td><td></td><td>指定機器以外</td><td></td></tr><tr><td>・人工心肺装置及び補助循環装置</td><td>1 2 件</td><td>・在宅療法賃貸借医療機器</td><td>3 7 件</td></tr><tr><td>・人工呼吸器</td><td>5 0 件</td><td>・その他（在宅除く）</td><td>3 6 件</td></tr><tr><td>・血液浄化装置</td><td>1 1 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・除細動器（A E D 除く）</td><td>1 7 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・閉鎖式保育器</td><td>1 1 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・診療用高エネルギー放射線発生装置</td><td>3 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・診療用放射線照射装置</td><td>1 件</td><td></td><td></td></tr></table>		指定機器		指定機器以外		・人工心肺装置及び補助循環装置	1 2 件	・在宅療法賃貸借医療機器	3 7 件	・人工呼吸器	5 0 件	・その他（在宅除く）	3 6 件	・血液浄化装置	1 1 件			・除細動器（A E D 除く）	1 7 件			・閉鎖式保育器	1 1 件			・診療用高エネルギー放射線発生装置	3 件			・診療用放射線照射装置	1 件		
指定機器		指定機器以外																															
・人工心肺装置及び補助循環装置	1 2 件	・在宅療法賃貸借医療機器	3 7 件																														
・人工呼吸器	5 0 件	・その他（在宅除く）	3 6 件																														
・血液浄化装置	1 1 件																																
・除細動器（A E D 除く）	1 7 件																																
・閉鎖式保育器	1 1 件																																
・診療用高エネルギー放射線発生装置	3 件																																
・診療用放射線照射装置	1 件																																
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																	
<div>・ 医療機器に係る情報の収集の整備（ 有 ）</div> <div>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</div> <div>・ その他の改善のための方策の主な内容：</div> <div>「医療機器安全対策実施要領」に基づき対応している。</div>																																	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・ 責任者の資格（ 医師 ）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>○ 医療安全管理責任者（副院長・医師）は、医療安全部長として当院における医療安全の総括的な責任を負うとともに、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、委員長として医療事故防止対策委員会を統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 5 名 ） ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>・ 指名した薬剤師が収集・整理した情報（DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、イエロー・ブルーレターやPMDA、m3.com、製薬企業等から得た情報）は、必要に応じてメール配信や紙媒体等で周知するよう指示しており、病棟においては情報が確実に周知されているか病棟担当薬剤師に確認させている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>・ 未承認医薬品等を使用する場合は本院臨床倫理委員会で承認を受けることとしている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品（未承認医薬品、適応外、禁忌）についてはその使用状況等を平成28年10月より毎月担当薬剤師から報告を受けており、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知することとしている。</p> <p>・ 担当者の指名の有無（ 有 ）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 主査 ） （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（ 有 ）</p>	

<p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>○ 医療安全部においてインフォームド・コンセントの診療録への記載内容について確認と評価を行っている。また、記載内容が乏しい診療科へは、具体的な記載方法を例にあげ指導を行っている。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録の量的・質的監査の施行。</p> <p>診療録管理委員会で結果の分析、フィードバック。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<p>・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 4 ）名</p> <p>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 2 ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>○ 医療の安全を確保するための改善方策に関すること</p> <p>○ 医療安全管理のための教職員の教育と啓発に関すること</p> <p>○ 医療事故発生時の対応に関すること</p> <p>○ 医療事故防止対策委員会等の円滑な運営及び連携に関すること</p> <p>○ 高難度新規医療技術に関すること</p> <p>○ 未承認新規医薬品等を用いた医療に関すること</p> <p>○ 医療安全管理に関する院内の連絡調整</p> <p>○ その他の医療安全管理に関する庶務</p> <p>※ 従事者の医療安全の認識に関するモニタリングの具体例</p> <p>○ 医療安全に係る研修会毎に実施するアンケートにより、認識や理解度の把握に努めている。</p> <p>今後、e-learning システムの機能を活用して、院内職員の医療安全の認識や理解度を更に高めるための方策を検討予定である。</p>	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 6 件 ）、及び許可件数（ 6 件 ）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に係る取扱要綱に則り、医療安全部が各診療科からの申請を受け付け、臨床倫理委員会（高難度新規医療技術調査検討部会）へ審査・意見を求める。医療安全部は臨床倫理委員会の意見を踏まえて、提供の適否、実施を認める場合の条件等について決定し、結果を各診療科へ通知するとともに、病院長への報告も行う。
 - 実施後、医療安全部は各診療科から高難度新規医療技術を用いた医療を提供した全ての症例について報告を受け、医療安全部又は臨床倫理委員会（高難度新規医療技術調査検討部会）において手術記録、診療録等の記載内容を確認し、その内容を病院長へ報告する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 24 件 ）、及び許可件数（ 23 件 ）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認医薬品等を用いた医療の提供に係る取扱要綱に則り、医療安全部が各診療科からの申請を受け付け、臨床倫理委員会（未承認医薬品等調査検討部会）へ審査・意見を求める。医療安全部は臨床倫理委員会の意見を踏まえて、提供の適否、実施を認める場合の条件等について決定し、結果を各診療科へ通知するとともに、病院長への報告も行う。

- 実施後、医療安全部は各診療科から未承認医薬品等を用いた医療を提供した全ての症例について報告を受け、医療安全部又は臨床倫理委員会（未承認医薬品等調査検討部会）において診療録等の記載内容を確認し、その結果を病院長へ報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 658 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 127 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 医療事故を防止し、安全な医療を提供する環境を整えることを目的として、以下の事項について調査・審議を行っている。
 - ・ 情報の収集及び提供
 - ・ 発生原因の分析並びに発生防止のための具体的方策の立案及び実施
 - ・ 発生防止に係る診療科等での措置状況の確認及び必要に応じた方策の見直し
 - ・ 発生防止に係る方策の周知及び教育
 - ・ その他医療事故の発生防止に係る事項
 - 入院患者の死亡事案について、医療安全部で実施したモニタリング結果を、医療事故防止対策委員会で報告している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（ 有（病院名：大阪大学医学部附属病院） ）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ 有（病院名：京都大学医学部附属病院） ）
- ・ 技術的助言の実施状況
 - 高難度新規医療技術導入の適否申請のための申請書の様式について、審査項目を増やすことにより評価委員会が評価しやすくなるとの助言を受け、現在、申請書の様式改訂に向けて検討を進めている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 患者相談窓口を医療連携福祉センターに設置し、患者・家族等からの相談に応じる。また、状況に応じて、医療安全に関する相談には医療安全管理者等が対応する。なお、安全対策が必要な場合は、医療事故防止対策委員会において協議し対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

H30. 4. 18、4. 26 トピックス研修会「当院の医療安全体制について」「院内感染について」「医薬品の取り扱いについて」
H30. 5. 29、5. 31 トピックス研修会「医療事故調査に基づいた対応について」
H30. 6. 12 医療安全講演会「医療事故に遭った患者・家族が本当に求めていること」
H30. 7. 3 感染対策講習会「医療関連感染と環境整備～アウトブレイクから学んだ教訓～」
H30. 7. 12 院内 BLS/AED 講習会
H30. 8. 28 院内 BLS/AED 講習会
H30. 8. 29 医療機器安全管理研修会「除細動器および酸素治療機器の安全な使用について」
H30. 9. 27 医薬品医療機器安全講演会「医薬品・医療機器の安全管理～最近の事例とその対策～」
H30. 10. 1 感染対策講習会「インフルエンザ対策と目の保護について」
H30. 10. 1 AST 講習会「抗菌薬適正使用のための培養検査」
H30. 10. 10 院内 BLS/AED 講習会
H30. 10. 23、10. 31 トピックス研修会「みんなで救える！院内発症脳梗塞」
H30. 11. 20、11. 21 トピックス研修会「放射線検査を安全かつ確実に行うために」
H30. 12. 3 医療安全講演会「医療事故調査の実際」
H30. 12. 4 院内 BLS/AED 講習会
H30. 12. 4 PICC カテーテルハンズオントレーニング
H30. 12. 7 「World Cafe で体感する多職種コミュニケーション」
H30. 12. 18 ICLS 講習会
H31. 1. 21 AST 講習会「外科領域感染症への対策」
H31. 1. 31 医療機器安全管理研修会「除細動器及び生体情報モニタ、酸素ポンプ等の安全な使用について」
H31. 2. 5、2. 8 トピックス研修会「院内で取り組もう！せん妄ケア」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○管理者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席（H31. 2. 6）

○医療安全管理責任者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席（H30. 9. 17～9. 18）

○医薬品安全管理責任者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席（H31. 1. 23）

○医療機器安全管理責任者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席（H30. 9. 17～9. 18）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 本学内外を問わず、医師免許を有する者 (2) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 (3) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 (4) 本学附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者 基準に係る内部規程の公表の有無（ 無 ） 公表の方法 <p>選考基準については、選考期間中に大学ホームページに掲載している。</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ） ※ 経歴については公表していない 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ） 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 大学ホームページによる公表 記者クラブへの発表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
近江 秀彦	札医大理事	○	学長が指名する理事	有
三浦 哲嗣	札医大医学部長		職指定	有
大日向輝美	札医大保健医療学部部長		職指定	有
三國 信啓	札医大附属病院副院長		学長が指名する副院長	有
萩原 直美	札医大附属病院副院長		学長が指名する副院長	有
三浦 哲嗣	札医大医学部教授		教授会から選出	有
齋藤 重幸	札医大保健医療学部教授		教授会から選出	有
太田 三夫	弁護士 太田・遠藤法律事務所		法務・コンプライアンスに関する高い見識を有している	無
山本 長史	北海道保健福祉部技監		長く北海道の保健・医療・福祉に携わり、豊富な知見を有している	無
佐藤 孝紀	室蘭工業大学副学長		大学の教育研究に関し、広くかつ高い見識を有している。	無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有	
<p>・ 合議体の主要な審議内容</p> <p>附属病院における医育、診療、看護、施設及び経営等</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>審議事項については必要に応じて院内ホームページ等で周知</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
土橋 和文	○	医療職	病院長
三國 信啓		医療職	副院長
齋藤 豪		医療職	副院長
萩原 直美		医療職	副院長
舩森 直哉		医療職	副院長
宮本 篤		医療職	病院長補佐
坂田 耕一		医療職	病院長補佐
渡辺 敦		医療職	病院長補佐
仲瀬 裕志		医療職	病院長補佐
高橋 聡		医療職	病院長補佐
成松 英智		医療職	病院長補佐
片寄 正樹		医療職	病院長補佐
近江 秀彦		役員	理事
高橋 朋江		事務職	事務局長
江本 健道		事務職	病院事務長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
事務決裁規程により、診療医の任免、許認可の申請、医療費の減免、診療契約等について、附属病院における部局長の専決事項を定めている。
また、教員兼務規程により、附属病院の部長等を決定する際、学長への推薦権を有している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
病院長補佐：病院長の任命により、附属病院の管理・運営に関する特命事項を所掌。
平成30年9月現在 7名。
（薬剤部長、放射線部長、手術部長、医療材料部長、感染制御部長、臨床研修・医師キャリア支援センター長、保健医療学部教授）
※ 別添名簿のとおり
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
【人事の状況】
副院長、各中央部門の長、診療科長については、病院長が推薦し、学長が決定している。
【研修の状況】
今年度は、本学と包括連携協定を締結している小樽商科大学のビジネススクール「地域医療マネジメントセミナー」について、限られた人数ではあるが、受講する機会を設けたところ。
例年、病院のマネジメントに特化した研修は行っていないが、計画的かつ継続的に日常の業務の実践を通じた職場内研修（OJT）を実施することにより、業務の遂行能力を高めるよう努めている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全体制、医療安全管理委員会、特定機能病院の承認要件に係る対応状況、医療安全部の業務等について、中立かつ客観的な立場から監査を行い、必要に応じて医療安全管理についての是正措置を講ずるよう理事長又は病院長へ意見を表明する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有 ）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>附属病院ＨＰにて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有するもの	無	1
南須原康行	北海道大学附属病院		医療に係る安全管理に係る識見をもつもの	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー(株)		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		学内委員	有	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

役員会は、理事長、副理事長及び理事をもって構成し、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項など重要事項について審議を行うほか、附属病院の経営状況についてほぼ毎月協議を行っている

・ 専門部署の設置の有無（ 有 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 無 ）

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p style="margin-left: 40px;">役員会は、理事長、副理事長及び理事をもって構成し、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項など重要事項について審議を行うほか、附属病院の経営状況についてほぼ毎月協議を行っている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年 12 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）・ 通報件数（年 0 件）・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ）・ 周知の方法 <p>札幌医科大学ホームページに公益通報窓口の案内を掲載</p> <p>医療安全対策マニュアルに掲載し、当該マニュアルを病院職員に配布している</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>機関：日本医療機能評価機構</p> <p>時期：平成 26 年 9 月</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト等</p> <p>内容等の概要：本院の役割や診療機能、医療技術等</p>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>緩和ケア診療、女性外来、GIDクリニック、プレストセンター、脳機能センター、心臓血管センター、スポーツ医学センター、腫瘍診療センター、臨床遺伝センター等</p>	

(様式第 9)

医大病第 3 8 4 号
令和元年 1 0 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長 塚本 泰司

札幌医科大学附属病院に関する変更について

標記について、医療法施行令（昭和 23 年政令第 326 号）第 4 条の 3 の規定に基づき、以下のとおり変更があったので届け出ます。

名 称
変更があった事項及びその内容
令和元年7月1日付けで結核病床6床を廃止し、総病床数は938床から932床になりました。

- (注) 1 必要がある場合は続紙に記載して添付すること。
- 2 開設者名の記入箇所及び「名称」欄には、変更があった場合は、変更後のものを記入すること。
- 3 「変更があった事項及びその内容」欄には、変更があった事項を明らかにした上で、その事項についての変更のみを、変更前と変更後の内容を区別して下記により記入すること。
- ① 開設者の氏名及び名称の変更については、変更前のもののみを記載することとしても差支えない。
- ② 診療科名の変更の場合は、医療法施行規則第 6 条の 4 に掲げる診療科名をそれ以外の診療科名よりも先に記入し、削除又は追加された診療科名に下線を付すこと。
- ③ 集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室の構造設備の変更については、承認申請書に記載することとされている事項に係る変更のみを変更前と変更後のそれぞれを区別して記入すること。なお、集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室を有しなくなった場合にはその旨を記載し、固定式の無菌病室や専用の医薬品情報管理室を新たに設けたなどの場合には承認申請書に記載することとされているものと同じ事項について記入すること。
- (記載例：50 床増床し、集中治療室にペースメーカーを導入した場合)
- 病床数
- 変更前：550 床
- 変更後：600 床
- 集中治療室に備える機器
- 変更前：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置
- 変更後：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置、ペースメーカー